

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	発達支援室長	田中 香織
こども-36	重点事業	発達支援サポートシステム推進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 発達支援室
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課 教育指導課
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	地域生活の支援サービス

1 事業の目的

対象	一般市民及び保育園・幼稚園・学校など関係機関職員
意図	発達障害への理解の促進と支援者の育成のための講座を開催するとともに、育成した人材を有効に活用する仕組みづくりに取り組んでいく
効果	地域における身近な支援者が育成され、発達に課題のある子どもが地域の中で健やかに成長し、生活していけるような社会の構築が図れる

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・H30.8.25からH31.1.18にかけてサポーター養成講座を2クール開催し、合計参加者実人数は137人であった。また、全講座修了者82名に修了証を発行した。 ・H30.12.26にサポーター養成講座全日程修了者を対象にフォローアップ講座を開催し、53名に修了証を発行した。 ・発達支援システム推進協議会会議にて、講座受講者の活用の仕組みづくりについて検討し、フォローアップ講座修了者を実際に学校で支援者として活動してもらう仕組みを構築した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数	106人		137人		150人		
事業の対価	333		470		2,748		
運営資源状況	国県支出金				国県支出金		
	地方債				地方債		
	その他				その他		
	一般財源	333		470		2,748	
	人員配置数	0.4		0.3		0.4	
事業経費	人件費(千円)	3,125		2,327		3,130	
	総事業費(千円)	3,458		2,797		5,878	
	市民1人当りの経費(円)	20		16		33	
	対象者1人当りの経費(円)	32,623		20,416		39,187	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入
		△-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> その他	見直しの内容	・養成した「発達支援サポーター」の学校での活用については、教育指導課ですでに実施している学級支援員制度への統合に向けて調整をはかっている。 ・幼稚園、保育園、認定こども園やこどもの家における活用については、検討が必要。	事業へ統合
	予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	・養成したサポーターの有効活用を図るにあたり、学校へのサポーター配置の人件費等の予算化を行った。令和元年度(2019年度)の学校のニーズと活動実績をふまえて予算規模を増大するか検討が引き続き必要。		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な子どもが保育園、幼稚園や学校の通常級に通うケースが増えており、引き続き職員の発達支援への理解とスキルアップが必要である。 ・平成30年度、一般市民にも講座受講の門戸を広げたところ、多くの参加があったことから、市民のニーズは高いと考えられた。今後も障害を持つ児童が生活する地域において、発達障害の理解が深まり、サポートできる支援者の育成が図られるような、地域づくりが求められる。
-------------------	---

平成30年度(2018年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・講座受講者の活用の仕組みづくり ・平成29年度は、養成講座(基礎)が1クールのみだったので、回数を増やしていくとともに基礎講座修了者を対象としたフォローアップ講座を開催し、地域で活動するサポーターの人材育成を図っていく。 	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・講座受講者の活用の仕組みづくりについては、庁内検討委員会(発達支援システムネットワーク各会議)による検討を継続して行い、学校における「学級支援員(有償ボランティア)」としての方向性を固めた。その上で教育指導課と予算措置を含む具体的活動について協議を重ね、予算を獲得した ・基礎講座を2クール実施するとともに、フォローアップ講座を1回(1日)実施した 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度から、具体的に「発達支援サポーター」としての活動が開始となるが、初めての事業であるため、学校に配置されたサポーター、サポーターを受け入れる学校双方に対しフォローをしていく必要があるため、教育指導課の連携を図りながらフォロー体制を整えていく。 ・幼稚園、保育園、認定こども園等就学前の子どもの所属集団やこどもの家におけるサポーターの活用については、具体化していないため、引き続き検討が必要である。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	サポーター養成講座(初級)の開催実績							
団体名	鎌倉市	逗子市						
他市実績	1クール(7回)	1クール(7回)						
	2回	1回						

比較事項	サポーター養成講座(初級)の総参加実人数							
団体名	鎌倉市	逗子市						
他市実績	実人数	実人数						
	137人	60人						

比較事項	サポーター養成講座(初級)修了者数(全講座受講者)							
団体名	鎌倉市	逗子市						
他市実績	全日程受講者	全日程受講者						
	82人	38人						

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	発達障害等特別な支援を必要とする児童が、地域で生き生きと生活することができるよう、発達障害への理解の促進と支援者の育成のための講座を継続するとともに、育成した人材を活用する仕組みづくり、地域づくりを構築していく上での進行管理を的確に行っていく。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	サポーター養成講座実施回数					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			<ul style="list-style-type: none"> ・講座1クール7回/7日 ・集中講座1クール7回/3日 ・フォローアップ講座2回/2日
基礎講座受講修了者のスキルアップを図るため、養成講座の充実を図る必要があるため。	目標値	-	-	-	-	11	12			
	実績値	-	-	-	7	11				
	達成率	-	-	-	-	100.0%				

指標の内容	サポーター養成講座参加実人数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			発達障害について、学び身近な支援者として活動できる人材育成の充実をはかる指標
発達障害について、学び身近な支援者として活動できる人材育成の充実をはかる指標	目標値	-	-	-	-	150	150			
	実績値	-	-	-	106	154				
	達成率	-	-	-	-	102.7%				

指標の内容	かまくらっ子発達支援サポーター活動実績					単位	時間	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			モデル校：市立小・中学校10校
養成した支援者が実際に地域で支援者として活動できる仕組みを令和元年度からスタートすることから、実績を評価する必要があるため。	目標値	-	-	-	-	-	2,317			
	実績値	-	-	-	-	-				
	達成率	-	-	-	-	-				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	発達障害等特別な支援を必要とする児童が、地域で生き生きと生活することができるよう、発達障害への理解促進と支援者の育成のための講座を開催するとともに、育成した人材を有機的に活用する仕組みを構築する。
-----------------------	--